

さよなら公演も笑いがいっぱい 住民に元気を与え続けた素人芝居大浦安



3日、「素人芝居大浦安」のさよなら公演に行ってきました。数年前、「林」（劇中の屋号）のじちや、南雲正夫さんから、「おれもあと何年芝居できるかな」という話を聞いたとき、「大浦安の芝居にも終わりが来るかもしれない」と思いました。それが本当になってしまいました。

私は何があっても最後の公演は観ておきたいと思って、安塚コミュニティプラザへ行きました。これまで芝居を観るたびに、笑い、涙ぐみ、切ない思いを抱きながらも、この地に生まれて良かった、この地で生きていくのが一番だと元気づけてもらった。その感謝の思いを表すためにも行きたかったのです。会場の大ホールには約400人が入り、立ち見の人が出るほど賑わいました。

いよいよ芝居開始。「林」のばちやが背中にゼンマイをいっぱいそって、舞台上がろうとする場面から笑いが起こりました。吹山由美子さんの名演技をいきなりみせてくんなりや、こたえさんねこてね。そ

して、朝茶一杯飲んで田かきに行く「林」のじちや。東頸城、いや上越の「じちやの代表」みたいな存在感がありました。「南」（劇中の屋号）のばちや、三好三千代さんや「堂ノ下」（劇中の屋号）のとちや、丸山守さん、「林」のあんちや、飯田勝徳さんなどの演技を観ていると、私たちが住んでいる地域のどこにでもいそうな人たちがばかりです。たまにセリフが出にくい場面もありましたが、それがまたいっそう親しみを感じさせてくれました。

今回の芝居でも、地域の中には心配なことだけじゃなく、「地域の宝」ともいうべきものが「いっぱいあるがそ」と訴えていました。ホタルはそのひとつ。ホタルの餌であるカワナをなくしてはならないと、地域の人だけでなく、地域外の人たちも「涙の崩れのベと片付け」をする。そして、ホタルの時期になれ

ば、「手づくりのどっつお」でもてなす。この「どっつお」も交流も「大事な宝」です。それにしても、「どっつお」、一人300円の値段の問題じゃないけど、安すぎだこてね。

今回は記念コンサートもありました。「テーマ曲で振り返る大浦安芝居の歩み」ということで、西城町の坂田佳子さんや鴨島の上村美菜子さんが「ここに咲く」「警女さが来なる」などを歌いました。大浦安の地の魅力が伝わる素敵な歌でした。そして最後は、「おらがふる里 東頸城の歌」の全員合唱。この歌、大浦安の芝居にぴたりでした。



【ムシトリナデシコ】ナデシコ科の越年草。漢字で「虫取り撫子」と書きます。花は紅色。花期は5～6月ですが、11月でも咲いていました。花言葉は、「畏」「誘惑」「しつこい」。写真は11月25日、大島区大平の桑原豊店近くで撮影。



演説会では平良木哲也元市議（県議選予定候補）や金谷地区振興協議会長の高橋敏光さんなども訴えました。また森ゆうこ参院議員や梅谷守氏から連帯のメッセージが寄せられました。

田村参院議員（写真左）は昨年の衆院選時に続いて2度目の上越市入り。今回も「常識が通らない」安倍内閣の暴走ぶりをリアルに報告、来春の県議選や参院選での市民と野党の共闘推進、日本共産党の躍進を訴えました。迫力満点の訴えに多くの参加者のみなさんが、「安倍政治のひどさを改めて感じた。なんとしても共産党に躍進してもらって、まともな政治を取り戻して」などの感想を寄せてくださいました。

田村参院議員（党副委員長）を迎えての2日の演説会、約350名の皆さんからご参加いただきました。心から感謝申し上げます。



田村参院議員、「市民と野党の共闘の推進を」と訴え

はしづめ法一の活動レポート

No.1887 2018.12.9
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見てある記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第五三五回

血筋

年なんでしょうかね、この頃、ちょっとしたことから血筋とか遺伝とかを意識することが多くなりました。

先日、ある家を訪問したときのことです。その家の入り口付近の道路に車をためて降りたところ、玄関を出て尾神岳の方を見ているSさんの後ろ姿が目にとまり、ハッとしました。というのも、その後ろ姿が長年お世話になったTさんそっくりだったからです。

どちらかと言えば丸い形の頭と髪型、少し横幅のある体型、肩の丸さ、そして何よりも全体の雰囲気人が懐かしいTさんによく似ていました。

Sさんが私の方を振り向いたとき、私は挨拶よりも先に、「おまん、お母さんに似てきたねえ」と言いました。私よりも少し先輩なのに失礼な言い方だったと思いますが、Sさんはそんなことは気にせず、「みんなにそう言われんが」と笑顔で応じてくださいました。

そんな対応に甘えて、「いや、オレは、お母さんに似ていくんだった方がうれしいけどね」とも言ってしまうました。誰かに似ていなくてよかったという意味ではなく、お母さんに似ていること自体がうれしかったのです。

Sさんのお母さんであるTさんとは大学を出てまもなく知り合いました。Tさんのお連れ合いだったと思います。私に声をかけ、二人して私を励ましてくださったのです。以来、一年に何度もTさん宅におじゃまし、お茶を「馳走になる、そんな関係になつていったのです。」

Tさんが亡くなってからすでに二〇年近く経過しています。後ろ姿であろうが、なんであろうが、そっくりな人と出会えば、うれしさに決まっています。

その日はSさんに会ってから、Sさんの近くに住むMさんとも会い、話をする機会がありました。最近、このMさんもまた、数年前亡くなったお母さんに似た雰囲気が出てきていました。

Mさんのお母さんは、私が書いていた随想を長年にわたり愛読してくださっていて、会うと必ずと言ってよいほど、「上がってお茶飲みなんねかね」と声をかけてくださいました。

お会いしたときは、ビラ配布などでも私が忙しく動き回っていたこともあって二、三回くらいしかお茶をいただく機会をもちませんでした。一緒にお茶を飲ませてもらったときには、「この間も書いてあったけど、おまさんちのお母さん、たっしやで、まだ山に行つて山菜採つてなんがね。たいしたもんだ」などと言って、話を次々としてくださいました。

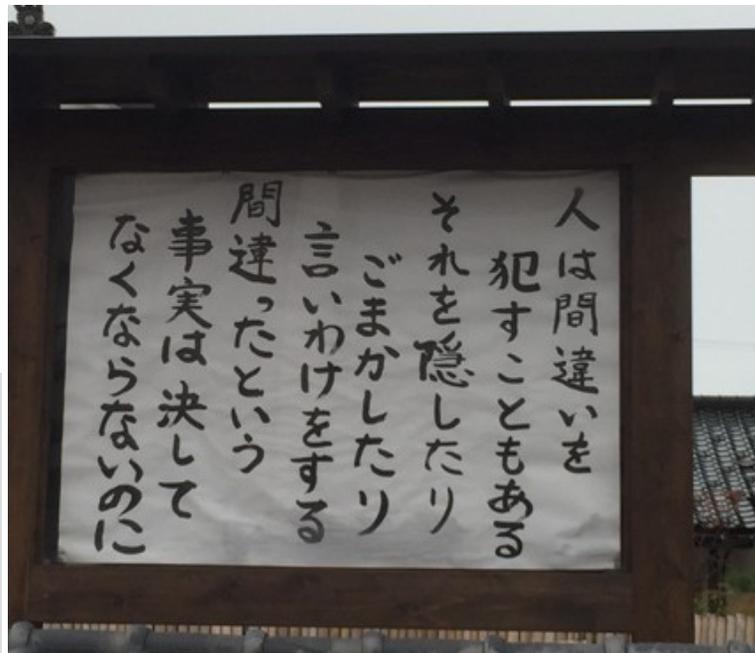
亡くなる少し前、自宅の座敷でベッド生活をされていたときも、私にぜひ会いたいと言ってくださり、ベッドのそばまで行って話をさせてもらいました。Mさんのお母さんと生前にお会いしたのはそれが最後、そのときの笑顔はいまも忘れません。

Mさんはいま六〇代ですが、最近、話す相手を見る目のやさしさなど、人に話しかけるときの様子、雰囲気がお母さんそっくりになってきました。

人間、六〇代に入り、さらに年を重ねていくと、親やその兄弟などに似てくるのでしょうか。先日、大島区大平でビラを配布していたとき、ある人に、「あんだ、『のうの』(母の実家の屋号)の英一さんに似てるね」と言われました。どうだろうかと思いましたが、本人は気付かなくても、顔、後ろ姿、歩き方、話し方などに似たところが出てくるのかも知れません。

【掲示板新調】

直江津は三八市の通りにある聴信寺の掲示板が改修され、新しい言葉が入りました。筆で書かれた「人は間違いを犯すこともある。それを隠したり、ごまかしたり...」。やはり手作りの掲示は人を引きつけます。市日には、この掲示板を見るのが楽しみだという人が少なくありません。



【サワガニ】

先日、吉川区内でサワガニを飼っている家があり、見せてもらいました。懐かしかったですね。

私は吉川区尾神に住んでいたとき、捕まえたことがあります。もちろん、食べたこともあります。

小川はきれいになりつつあるのでしょか。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	11月28日(水)	12月5日(水)
上越南消防署	0.043	0.057
上越北消防署	0.040	0.050
新井消防署	0.050	0.057
頸北消防署	0.043	0.050
頸南消防署	0.050	0.050
東頸消防署	0.040	0.050
高士分遣所	0.050	0.060
名立分遣所	0.047	0.053